

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成26年8月13日

【四半期会計期間】 第33期第1四半期(自平成26年4月1日至平成26年6月30日)

【会社名】 株式会社免疫生物研究所

【英訳名】 Immuno-Biological Laboratories Co.,Ltd.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 清藤 勉

【本店の所在の場所】 群馬県藤岡市中字東田1091番地1

【電話番号】 0274-22-2889(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役事業統括推進本部長 中川 正人

【最寄りの連絡場所】 群馬県藤岡市中字東田1091番地1

【電話番号】 0274-22-2889(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役事業統括推進本部長 中川 正人

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第32期 第1四半期 連結累計期間	第33期 第1四半期 連結累計期間	第32期
会計期間	自 平成25年4月1日 至 平成25年6月30日	自 平成26年4月1日 至 平成26年6月30日	自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日
売上高 (千円)	107,634	118,861	670,428
経常損失 () (千円)	60,854	63,745	99,758
四半期(当期)純損失 () (千円)	61,637	62,715	114,693
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	61,298	63,602	112,659
純資産額 (千円)	2,267,521	2,731,133	2,794,736
総資産額 (千円)	2,628,701	3,022,933	3,147,094
1株当たり四半期(当期)純損失金額 () (円)	9.99	9.57	17.99
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	86.3	89.5	87.9

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 前第1四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。また、当第1四半期連結累計期間及び第32期連結会計年度の潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式は存在するものの、1株当たり四半期(当期)純損失金額であるため記載しておりません。
4. 平成25年10月1日付で普通株式1株につき普通株式10株の割合で株式分割を行っております。これにより第32期の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、第32期第1四半期連結累計期間及び第32期連結会計年度の1株当たり四半期(当期)純損失金額を算定しております。

2 【事業の内容】

当社グループは、遺伝子組換えカイコにより生産したヒトコラーゲンである化粧品原料「ネオシルク® - ヒトコラーゲン」を含有した化粧品を量販店へ販売する株式会社エムコスメティックスの第三者割当増資を引き受け、前連結会計年度に連結子会社としました。

当連結会計年度においては、販売体制が整ったことから、前連結会計年度に「遺伝子組換えカイコ事業」に含んでいた上記子会社が展開しております化粧品に関連する事業を「化粧品関連事業」としてセグメントを独立することとしました。

よって、当社グループが行う事業は、「診断・試薬事業」「遺伝子組換えカイコ事業」「検査事業」「化粧品関連事業」の4つのセグメントとなります。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社が判断したものであります。

(1) 経営成績の分析

当第1四半期連結累計期間における、当社グループのセグメント別の業績は、下記のとおりとなりました。

・診断・試薬事業

研究用試薬関連においては、国内販売は、主力の受託サービスにおいて大口顧客である製薬企業等からの受注の伸び悩みにより売上が減少いたしました。海外販売は、前事業年度末の駆け込み需要の反動の影響等により、EIA測定キットや抗体の自社製品の売上が減少いたしました。その結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は72,521千円（前年同期比15.6%減）となりました。なお、当事業の国内販売につきましては、タカラバイオ株式会社と独占販売契約を継続しております。

医薬用関連においては、自社製造の動物用体外診断用医薬品の牛海綿状脳症測定キットの販売が機材の遅れ等の影響により、月ずれが発生し、売上が減少いたしました。一方、体外診断用医薬品原料の受託製造業務は順調に進行しております。その結果、売上高は13,048千円（前年同期比28.0%減）となりました。なお、当事業においては、新規治療薬シーズの開発や体外診断用医薬品の製品開発を行っており、成人T細胞白血病の原因ウイルスであるHTLV-1の研究開発や難聴・めまいの原因を生化学的に診断できる世界初のバイオマーカーの研究開発等を進めております。

その結果、研究用試薬関連、医薬用関連を合わせた当セグメントの売上高は85,570千円（前年同期比17.8%減）、営業損失は35,968千円（前年同期は45,537千円の営業損失）となりました。

・遺伝子組換えカイコ事業

当社は、カイコの繭からヒト型フィブリノゲンを効率よく作製する画期的な方法の開発に成功し、アステラス製薬株式会社とヒト型フィブリノゲンを原料とした医薬品の製品化を目指しております。平成25年12月25日に発表いたしましたアステラス製薬株式会社との共同研究は、平成26年7月10日「アステラス製薬株式会社との共同研究の進捗状況についてのお知らせ」でお知らせしたとおり、本共同研究は、その第一次ステップであるヒト型フィブリノゲンの「性状に関する基礎検討」が予定通り終了し、第二次ステップである「医薬品に向けた製造方法の検討」に進んでおります。現在の予定では、当連結会計年度末までには終了し、要件を満たし次第、速やかに医薬品用途での開発等の締結に向けた協議を開始いたします。当社とアステラス製薬株式会社は、遺伝子組換えカイコの生産系により、安全なヒト型フィブリノゲンの安定供給を実現させ、2020年頃に本製品を上市することを目指しております。また、そのほかの共同研究や遺伝子組換えカイコ関連受託サービスにつきましても順調に進行しております。その結果、当セグメントの売上高は3,730千円（前年同期比3.8%増）、営業損失は15,750千円（前年同期は16,007千円の営業損失）となりました。なお、当セグメントにおいては、将来に向けた重点的な研究開発等を積極的に進めており、優秀な人材を採用し、医薬品原料の生産拠点及び付属設備への投資を行い、医薬品原料生産にむけた、体制の構築を進めてまいります。

・検査事業

当社グループが所有する脂質代謝解析技術を利用した生活習慣病領域での創薬・研究支援に加え予防・診断支援などの需要が増加しており、積極的に人材採用及び設備投資を実施し、売上拡大を目指し人材育成に注力しております。その結果、当セグメントの売上高は28,973千円、営業損失は7,790千円となりました。

なお、当セグメントは前連結会計年度の第1四半期連結会計期間の末日より連結子会社である株式会社スカイライト・バイオテックの連結を開始しておりますので、前年同期の比較はありません。

・化粧品関連事業

「すべての化粧品にネオシルク - ヒトコラーゲン」をスローガンに掲げております。まずは、ネオシルク - ヒトコラーゲンの素晴らしさを消費者の皆様にご理解いただくために、量販店を中心として販売活動を行う株式会社エムコスメティックスにより、販売開始の準備を進めてまいりました。海外販売用及び量販店用の製品化が遅れておりましたが、当第1四半期連結累計期間より本格的な販売促進活動を実施しております。その結果、当セグメントの売上高は768千円、営業損失は12,560千円となりました。

なお、当セグメントは当第1四半期連結会計期間より新しいセグメントとしており、また前連結会計年度の第3四半期連結会計期間の末日より連結子会社である株式会社エムコスメティックスの連結を開始しておりますので、前年同期の比較はありません。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は、118,861千円（前年同期比10.4%増）となりました。

経費面においては、共同研究開発における共同研究先からの負担金があったものの、化粧品関連事業において販売活動の遅れにより販管費が先行したことや検査事業への先行投資により減価償却費が増加いたしました。その結果71,259千円の営業損失（前年同期は61,544千円の営業損失）、63,745千円の経常損失（前年同期は60,854千円の経常損失）、62,715千円の四半期純損失（前年同期は61,637千円の四半期純損失）となりました。

(2) 財政状態の分析

(資産)

当第1四半期連結会計期間末における資産の残高は、前連結会計年度末比3.9%減の3,022,933千円となりました。この主な要因は次のとおりであります。

「現金及び預金」につきましては売上債権の回収が進んだものの四半期純損失の計上等により25,300千円の減少、「受取手形及び売掛金」につきましては前連結会計年度の第4四半期連結会計期間に比べ売上の計上が減少したこと等から72,074千円の減少となっております。

(負債)

当第1四半期連結会計期間末における負債の残高は、前連結会計年度末比17.2%減の291,799千円となりました。この主な要因は次のとおりであります。

「その他」（流動負債）が前連結会計年度の未払債務の支払や法人税等の納付等により40,685千円減少、「長期借入金」（1年内返済予定の長期借入金含む）が返済により11,661千円減少となっております。

(純資産)

当第1四半期連結会計期間末における純資産の残高は、前連結会計年度末比2.3%減の2,731,133千円となりました。これは主に四半期純損失の計上によるものであります。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、当社の事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(4) 研究開発活動

当第1四半期連結累計期間の研究開発費の総額は32,624千円であります。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	20,000,000
計	20,000,000

【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末現在発行数(株) (平成26年6月30日)	提出日現在発行数(株) (平成26年8月13日)	上場金融商品取引所名又は登録認可金融商品取引業協会名	内容
普通株式	6,547,590	6,547,590	東京証券取引所 JASDAQ (グロ-ス)	単元株式数100株 完全議決権株式であり、権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式
計	6,547,590	6,547,590		

(注) 提出日現在発行数には、平成26年8月1日からこの四半期報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式数は、含まれておりません。

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成26年6月30日	-	6,547,590	-	1,846,099	-	878,479

(6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成26年6月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 100		
完全議決権株式(その他)	普通株式 6,543,200	65,432	単元株式数100株 権利内容に何ら限定のない当社における 標準となる株式
単元未満株式	普通株式 4,290		
発行済株式総数	6,547,590		
総株主の議決権		65,432	

(注) 1 「単元未満株式」には自己株式が90株含まれております。

2 当第1四半期会計期間末日現在の「発行済株式」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(平成26年3月31日)に基づく株主名簿による記載をしております。

【自己株式等】

平成26年6月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数 に対する所有 株式数の割合(%)
(自己所有株式) 株式会社免疫生物研究所	群馬県藤岡市中字東田 1091番地1	100	-	100	0.00
計	-	100	-	100	0.00

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間(平成26年4月1日から平成26年6月30日まで)及び第1四半期連結累計期間(平成26年4月1日から平成26年6月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成26年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,194,909	1,169,609
受取手形及び売掛金	178,148	106,074
商品及び製品	73,428	74,089
仕掛品	125,497	125,235
原材料及び貯蔵品	83,421	82,930
その他	32,302	26,089
流動資産合計	1,687,708	1,584,029
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	506,611	498,474
機械装置及び運搬具（純額）	21,573	20,577
土地	362,687	362,687
その他（純額）	91,047	84,660
有形固定資産合計	981,920	966,399
無形固定資産		
のれん	183,958	180,872
その他	35,664	30,424
無形固定資産合計	219,623	211,296
投資その他の資産		
投資有価証券	213,338	214,850
その他	44,504	46,357
投資その他の資産合計	257,842	261,207
固定資産合計	1,459,386	1,438,903
資産合計	3,147,094	3,022,933
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	17,065	9,127
短期借入金	100,000	100,000
1年内返済予定の長期借入金	46,644	46,644
その他	110,519	69,833
流動負債合計	274,228	225,604
固定負債		
長期借入金	77,271	65,610
その他	857	584
固定負債合計	78,128	66,194
負債合計	352,357	291,799
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,846,099	1,846,099
資本剰余金	878,479	878,479
利益剰余金	50,393	12,322
自己株式	73	73
株主資本合計	2,774,898	2,712,183

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成26年6月30日)
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	7,344	5,832
その他の包括利益累計額合計	7,344	5,832
新株予約権	7,551	7,551
少数株主持分	19,630	17,231
純資産合計	2,794,736	2,731,133
負債純資産合計	3,147,094	3,022,933

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

	(単位：千円)	
	前第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年6月30日)
売上高	107,634	118,861
売上原価	59,373	67,005
売上総利益	48,260	51,856
販売費及び一般管理費	109,805	123,116
営業損失()	61,544	71,259
営業外収益		
受取利息	376	1,491
助成金収入	302	-
為替差益	480	-
受取補償金	-	7,690
その他	132	138
営業外収益合計	1,291	9,320
営業外費用		
支払利息	601	495
為替差損	-	1,306
その他	-	4
営業外費用合計	601	1,805
経常損失()	60,854	63,745
特別損失		
固定資産売却損	171	-
特別損失合計	171	-
税金等調整前四半期純損失()	61,025	63,745
法人税、住民税及び事業税	611	1,369
法人税等合計	611	1,369
少数株主損益調整前四半期純損失()	61,637	65,114
少数株主損失()	-	2,399
四半期純損失()	61,637	62,715

【四半期連結包括利益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

	(単位：千円)	
	前第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年6月30日)
少数株主損益調整前四半期純損失()	61,637	65,114
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	339	1,512
その他の包括利益合計	339	1,512
四半期包括利益	61,298	63,602
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	61,298	61,203
少数株主に係る四半期包括利益	-	2,399

【注記事項】

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年6月30日)
減価償却費	19,923千円	22,992千円
のれんの償却額	- "	3,086 "

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年6月27日 定時株主総会	普通株式	30,819	50	平成25年3月31日	平成25年6月28日	利益剰余金

2. 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間(自平成26年4月1日 至平成26年6月30日)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			
	診断・試薬事業	遺伝子組換え カイコ事業	検査事業	合計
売上高				
外部顧客への売上高	104,039	3,594	-	107,634
セグメント間の内部売上高又は振替高	-	-	-	-
計	104,039	3,594	-	107,634
セグメント損失()	45,537	16,007	-	61,544

(注) セグメント損失は四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報(のれんの金額の重要な変動)

当第1四半期連結累計期間より、株式会社スカイライト・バイオテックを連結子会社といたしました。当該事業によるのれんの増加額は、「検査事業」セグメントにおいて、181,830千円であります。

当第1四半期連結累計期間(自平成26年4月1日至平成26年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント					調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額
	診断・試薬 事業	遺伝子組換え カイコ事業	検査事業	化粧品関連 事業	合計		
売上高							
外部顧客への売上高	85,570	3,730	28,793	768	118,861	-	118,861
セグメント間の 内部売上高又は振替高	-	-	180	-	180	180	-
計	85,570	3,730	28,973	768	119,041	180	118,861
セグメント損失()	35,968	15,750	7,790	12,560	72,069	810	71,259

(注)1. セグメント損失は四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. セグメント損失の調整額810千円には、セグメント間取引消去810千円が含まれております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

当第1四半期連結会計期間より、従来「遺伝子組換えカイコ事業」に含まれていた「化粧品関連事業」について、販売体制が整ったため報告セグメントとして記載する方法に変更しております。

なお、前第1四半期連結累計期間のセグメント情報については、前連結会計年度の第4四半期連結会計期間より「化粧品関連事業」を開始しておりますので、実績に変更はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純損失金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年6月30日)
1株当たり四半期純損失金額()	9円99銭	9円57銭
(算定上の基礎)		
四半期純損失金額()(千円)	61,637	62,715
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る四半期純損失金額()(千円)	61,637	62,715
普通株式の期中平均株式数(株)	6,163,860	6,547,400

(注)1. 前第1四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額は、潜在株式が存在しないため記載しておりません。また、当第1四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額は、潜在株式は存在するものの、1株当たり四半期純損失金額であるため記載しておりません。

2. 平成25年10月1日付で普通株式1株につき普通株式10株の割合で株式分割を行っております。これにより第32期の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、前第1四半期連結累計期間の1株当たり四半期純損失金額を算定しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成26年 8月13日

株式会社免疫生物研究所
取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	飯塚正貴印
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	小出検次印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社免疫生物研究所の平成26年4月1日から平成27年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間(平成26年4月1日から平成26年6月30日まで)及び第1四半期連結累計期間(平成26年4月1日から平成26年6月30日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社免疫生物研究所及び連結子会社の平成26年6月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。